

ドイツ水難救助資格省章（DRSA）－ 銅・ブロンズ試験について

私の勤務するミュンヘン日本人国際学校は、バイエルン州の認可をもらって補助金の支給も受けながら運営している学校です。そのため、バイエルン州の公立の学校と同様な決まりのもとで様々な教育課程が組まれています。その決まりの中の一つとして、水泳の授業を行う教師は、「ドイツ水難救助資格省章（DRSA）」を取得することというものがあります。昨年度新たに設けられた規定のようですが、私たちも講習会を受けて資格を取得しました。保健体育が専門なので、大変興味深く講習を受けましたので、内容をお伝えしたいと思います。

まず、学科試験のための約8時間の座学講習を、数回に分けて受講しました。その際、日本人の通訳の方に訳していただきながら、水辺による事故の現状やその対策、救急法などをしっかり勉強しました。その後は、救急法の実技講習を受けていよいよプールでの実技です。プールの中での写真はありませんが、ウォーミングアップで400m泳いでから講習が始まるなどなかなかハードな練習でした。以下に実技試験の内容を紹介いたします。

実技試験内容

- 100mを10分以内に泳ぐ、そのうち100mは腕を腹を下にした(以下、腹ばい)状態、ならびに仰向けの状態で腕を使わずに開脚の蹴り足で泳ぐ
- 100mを衣類を着用した状態で4分以内に泳ぐ、最後に水中で脱衣
- 約1mの高さからの飛び込み3種(下肢部を抱える小包み型、スタート型、つま先からの飛び込みなど)
- 15m潜水泳ぎ
- 水面からプール床底まで潜水を2回、1回は頭から、1回はつま先から潜水し床底から5kgのリングまたはそれに相当する物を取ってくる(水深2-3m)
- 50m(人の)搬送泳ぎ、押しながら、または引きながらのどちらか
- 抱きつかれるのを防ぐ方法、抱きつかれたときの開放の仕方の確認
 - － 後から羽交い絞めにされた状態からの開放
 - － 後から首を絞められた状態からの開放
- 相手のわきの下を掴んだ状態で、ならびに捕縄掴み(片手を背に当てて掴んだ状態)で50m引泳(引張りながら泳ぐ)
- 課題の組み合わせ、下記の課題を順序に従い中断無く行う
 - － 20m 腹ばい状態で泳ぐ、ただし約半分(10m)は2-3m潜水し床底から5kgのリングまたは相当の物を拾って浮上、これをまた落した後残りの距離を泳ぐ
 - － 20m パートナーを引泳
 - － 人を岸に上げる作業のデモンストレーション
 - － 心配蘇生法

以上のような内容でした。ドイツでは生涯スポーツが非常に盛んで、休日や夕方は大勢の人たちがプールや川、湖での水泳を楽しんでいます。そうした習慣を支えているものとしてこうした水難救助の活動も盛んに行われていることを知り、大変有意義な講習となりました。

今後も、さらにドイツの生涯スポーツに関する情報提供ができればと考えています。

(ミュンヘン日本人国際学校 南 隆仁)

